

2020 3/24

No.2111

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
—神奈川政経懇話会—



野球の独立リーグ、ルートインBCリーグに参入した神奈川フューチャードリームスは15日、選手や監督らが集結し、報道陣にユニホームを披露。4月開幕に向けて意気込みを語った。



## contents

視点点描	3
120年前の感染症	
デモクラシーの現場から	4
1強体制の不協和音	
文 化	6
「サブスク」利用、サザンを聴く 外出見合わせのムードの中で	
くらし2020	8
治療薬開発進む白血病	
企業最前線	10
新型コロナ検査迅速化に期待 医薬関連企業、急ピッチで試薬開発へ	
アジアの風	12
デマと分かっても行列するか？	
NNAアジア経済リポート	13
神奈川景気データファイル 会員コーナー	14
神奈川景気データファイル	15

### 事務局だより

◇2020年4月定例講演会  
4月22日(水)午後1時30分～3時

ホテルニューグランド本館2階「レインボーボールルーム」  
講師は株式会社ファンケル  
名誉相談役、ファウンダーの  
池森賢二氏  
演題は「社会課題解決型の企  
業」

【おことわり】27日に開催を予定しておりました3月定例講演会「ヨロズのグローバル経営」は、新型コロナウイルスの感染拡大による安全への影響を考慮し延期といたしました。  
新たな開催日は決定次第お知らせいたします。

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局☎045(226) 2121。

# 視点



## 120年前の感染症

登山家で紀行作家の小島烏水(こじまうすい)は、日本山岳会創設者で横浜に居を構えていた。1902(明治35)年に、槍ヶ岳に登った体験をつづった「鎗ヶ岳探検記」は、日本のスポーツ登山が始まる時期の山村の様子を生き生きと伝えていた。その中に、感染症のエピソードが描かれていた。

槍ヶ岳は江戸時代に僧播隆(ばんりゅう)が開山し、明治に入つて外国人技師

り、烏水ら二人はびしょぬれに。びっくりして事情を聞くと、かけられたのは消毒薬。二人が通過してきた村々に赤痢が流行していたため、自分の村に赤痢が入らないよう村人が交代で旅人に消毒薬をかけていたものだつた。烏水自身、ここまで村の様子を「赤痢にて交通遮断の張り紙あるにおどろきて走る」と記しており、当時の赤痢流行と住民の恐怖感が痛いよう伝わってくる。

それから100年以上が過ぎた。科学技術も衛生状態も大きく進歩、改善した。現代のわれわれは、2000年代初頭のSARS(重症急性呼吸器症候群)流行などを除けば、日常生活で感染症の恐怖を実感することは少ない。

そんな日常感覚が一変した。新型コロナウイルスは小中高校の休校、プロ野球や大相撲を無観客に、選抜高校野球を中止に追い込んだ。WHO(世界保健機関)は11日、「パンデミック(世界的大流行)の状態」と述べるに至つた。経済への影響も計り知れない。社内感染者が発生した場合の企業活動の継続が危ぶまれる。神奈川新聞の紙面も「新型コロナウイルス情報」面を設けるなど姿を変えた。

や、後に烏水と親交を結ぶ英国人宣教師ウォルター・ウエストンらが登つっていたものの、烏水はその事実を知らなかつた。烏水は友人と二人で同年8月、未踏の山への「探検」として、松本から拠点となる白骨温泉への山道をたどつた。ある村に至る直前、大きなキドガ描かれていた。

一方、個人の備えといえばマスクやアルコール消毒液程度といつた頼りなさ。科学の進歩はどこにあるのか、と嘆きたくなる。しかも、これらが町からほとんど姿を消して久しい。

だが、1人の感染者が平均して何人に感染させるかを示す数値は、徐々に減つてきているという。そして、この値が1より小さくなれば、終息が見えることを意味する。その出口まで、感染を広げない行動を冷静に続けたい。

(神奈川新聞社編集局次長 石本 健二)